

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	がっくおほじん ふじたがくえん 学校法人 藤田学園								
フリガナ大学の名称	フジタイカダイガクダイガクイン 藤田医科大学大学院（FUJITA HEALTH UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL）								
大学本部の位置	愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98								
大学の目的	「独創一理」の建学の理念にもとづき、真理を探究する独創的研究によって学術水準の向上に寄与する研究者を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	高度な知識と科学的思考に基づき、地域保健福祉・医療現場と協働しながら問題が解決できる資質と、高い倫理観を有した高度専門職業人、研究者、教育者を養成する。看護学、リハビリテーション療法学を架橋し、既存の学問分野の枠組みを超えた形で分野横断的に専門学術知を融合することで、学際的な視座から多様な問題を解き明かすことのできる能力を修得する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	保健学研究科 [Graduate school of Health Sciences] 保健学専攻 (D) [Doctoral Program in Health Sciences] 計	年	人	年次人	人	博士 (保健学) 【Doctor of Health Sciences】	令和6年4月 第1年次	愛知県豊明市沓掛町 田楽ヶ窪1番地98	
大学院 14条特例の実施									
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	医療科学研究科 医療科学専攻 (M、D) の設置 (令和6年4月) 保健学研究科 保健学専攻 (D) の収容定員増 (令和6年4月) 保健学研究科 医療科学専攻 (D) の学生募集停止 (令和6年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	保健学研究科 保健学専攻 博士後期課	講義	演習	実験・実習	計	14 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	保健学研究科 保健学専攻 (博士後期課程)	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
			(13)	(1)	(0)	(0)	(14)	(0)	(0)
		計	(13)	(1)	(0)	(0)	(14)	(0)	(0)
	既設分	医学研究科 医科学専攻 (修士課程)	21 (21)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	22 (18)	0 (0)	60 (60)
		病院経営学・管理学専攻 (専門職学位課程)	12 (12)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	12 (12)
		医学専攻 (博士課程)	60 (60)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	60 (60)	0 (0)	134 (134)
		保健学研究科 保健学専攻 (修士課程)	42 (42)	27 (27)	2 (2)	0 (0)	71 (71)	0 (0)	211 (211)
		医療科学専攻 (博士後期課程)	23 (23)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	4 (4)
	計	158 (158)	31 (31)	4 (4)	0 (0)	193 (193)	0 (0)	— (—)	
合計		171 (171)	32 (32)	4 (4)	0 (0)	207 (207)	0 (0)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員	713 (713)	183 (183)		896 (896)		人		
	技術職員	3,975 (3,975)	105 (105)		4,080 (4,080)		人		
	図書館専門職員	6 (6)	4 (4)		10 (10)		人		
	その他の職員	240 (240)	175 (175)		415 (415)		人		
計	4,934 (4,934)	467 (467)		5,401 (5,401)		人			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	【借地(借用年)】 豊明校地： 17,202.82㎡(30 年) 中川校地： 5,471.39㎡(30年) 七栗校地： 5,792.18㎡(3年) 岡崎校地： 29,717.19㎡(10 年)			
	校 舎 敷 地	237,929.20㎡	0㎡	0㎡	237,929.20㎡				
	運 動 場 用 地	46,351.00㎡	0㎡	0㎡	46,351.00㎡				
	小 計	284,280.20㎡	0㎡	0㎡	284,280.20㎡				
	そ の 他	165,771.93 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	165,771.93 ㎡				
合 計	450,052.13 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	450,052.13 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		115,623.74㎡ (115,623.74㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	115,623.74㎡ (115,623.74㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	72室	64室	128室	3室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		保健学研究科 保健学専攻 博士後期課程		14 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	「研究科単位で の特定不能なた め、大学全体の 数」	
	医療科学研究科 医療科学専攻	153,595 [70,584] (153,595 [70,584])	3,510 [1,731] (3,510 [1,731])	3,279 [1,725] (3,279 [1,725])	3,587 (3587)	8,545 (8,545)	15 (15)		
	計	153,595 [70,584] (153,595 [70,584])	3,510 [1,731] (3,510 [1,731])	3,279 [1,725] (3,279 [1,725])	3,587 (3587)	8545 (8,545)	15 (15)		
図 書 館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		2,626.1㎡		282		167,225			
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		3,341.71㎡		弓 道 場					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	経費の見積り								
	教員1人当り研究費等		1,168千円	1,168千円	1,168千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等		1,590千円	1,590千円	1,590千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	図 書 購 入 費	42千円	42千円	42千円	42千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設 備 購 入 費	377千円	377千円	377千円	377千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	900千円	750千円	750千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			経常的経費については、学生納付金以外に法人本部からの繰入金						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	藤田医科大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
		年	人	年次 人	人		倍		
	医学研究科								愛知県豊明市沓掛 町田楽ヶ窪1番地98
	医科学専攻	2	5	—	10	修士(医科学)	0.7	令和2年度	
	病院経営学・管理学専攻	1.5	10	—	20	病院経営学・管理学 修士(専門職)	1.6	令和5年度	
	医学専攻	4	52	—	208	博士(医学)	0.78	平成30年度	
	保健学研究科								
保健学専攻	2	50	—	100	修士(保健学) 修士(看護学)	1.12	平成13年度		
医療科学専攻	3	8	—	24	博士(医療科学)	1.87	平成27年度		
医学部						1.00			
医学科	6	120	—	720	学士(医学)	1.03	昭和47年度	令和6年度募集停止	

既設大学等の状況	医療科学部						1.09		愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98
	医療検査学科	4	140	—	560	学士（医療検査科学）	1.01	平成31年度	
	放射線学科	4	90	—	360	学士（診療放射線技術学）	1.01	昭和62年度	
	保健衛生学部							1.06	
	看護学科	4	135	—	540	学士（看護学）	1.05	平成31年度	
	リハビリテーション学科							1.08	
	理学療法専攻	4	70	—	280	学士（理学療法学）	1.03	平成31年度	
作業療法専攻	4	45	—	180	学士（作業療法学）	1.16	平成31年度		
附属施設の概要	<p>名称：藤田医科大学病院 目的：診療 所在地：愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98 開院年月日：昭和48年5月29日 土地面積：290,757.28 m² 建物面積：延 145,368.69 m² 病床数：1,376 床</p> <p>名称：藤田医科大学ばんたね病院 目的：診療 所在地：愛知県名古屋市中川区尾頭橋三丁目6番10号 開院年月日：昭和46年10月1日 土地面積：8,175.04 m² 建物面積：延 22,034.40 m² 病床数：370 床</p> <p>名称：藤田医科大学七栗記念病院 目的：診療 所在地：三重県津市大鳥町424番地の1 開院年月日：昭和62年4月20日 土地面積：122,061.09 m² 建物面積：延 13,881.88 m² 病床数：218 床</p> <p>名称：藤田医科大学中部国際空港診療所 目的：診療 所在地：愛知県常滑市セントレア一丁目1番地旅客ターミナルビル2階 開設年月日：平成17年2月1日 建物面積：延 171.84 m²</p> <p>名称：藤田医科大学地域包括ケア中核センター 目的：医療・福祉 所在地：愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98 開設年月日：平成25年2月1日 建物面積：延 122.05 m²</p> <p>名称：藤田医科大学岡崎医療センター 目的：診療 所在地：愛知県岡崎市針崎町字五反田1番地 開院予定年月日：平成32年4月1日 土地面積：29,717.19 m² 建物面積：延 37,970.24 m² 病床数：400 床</p>								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の出定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人藤田学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
藤田医科大学				藤田医科大学				
医学部				医学部				
医学科	120	—	720	医学科	110	—	700	
医療科学部				医療科学部				
医療検査学科	140	—	560	医療検査学科	140	—	560	
放射線学科	90	—	360	放射線学科	90	—	360	
保健衛生学部				保健衛生学部				
看護学科	135	—	540	看護学科	135	—	540	
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科	115	—	460	
理学療法専攻	70	—	280	(先進理学療法コース)				
作業療法専攻	45	—	180	(先進作業療法コース)				
計	600	—	2640	計	590	—	2620	
藤田医科大学大学院				藤田医科大学大学院				
医学研究科				医学研究科				
医科学専攻(M)	5	—	10	医科学専攻(M)	5	—	10	
病院経営学・ 管理学専攻(P)	10	—	20	病院経営学・ 管理学専攻(P)	10	—	20	
医学専攻(D)	52	—	208	医学専攻(D)	52	—	208	
保健学研究科				保健学研究科				
保健学専攻(M)	50	—	100	保健学専攻(M)	<u>25</u>	—	<u>50</u>	定員変更(△25)
医療科学専攻(D)	8	—	24	保健学専攻(D)	<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和6年4月学生募集停止
				保健学専攻(D)	<u>6</u>	—	<u>18</u>	研究科の専攻に係る課程の変更 (設置届出)
				医療科学研究科				研究科の設置
				医療科学専攻(M)	<u>25</u>	—	<u>50</u>	(設置届出)
				医療科学専攻(D)	<u>4</u>	—	<u>12</u>	(設置届出)
計	<u>125</u>	—	<u>362</u>	計	<u>127</u>	—	<u>368</u>	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行 終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
保健学研究科 保健学専攻(M)	修士 (保健学) 修士 (看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係及びリ ハビリテーション関係以 外)	保健学研究科保健学専攻(M)	27	21	保健学研究科 保健学専攻(M)	修士 (保健学) 修士 (看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係及びリ ハビリテーション関係以 外)	保健学研究科保健学専攻(M)	27	21
		保健衛生学関係 (看護学関係)	医療科学研究科医療科学専攻 (M)	39	18			保健衛生学関係 (看護学関係)	その他	1	0
		保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	その他	5	3			保健衛生学関係 (看護学関係)			
								保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)			
		計		71	42			計		28	21
保健学研究科 医療科学専攻 (D) (廃止)	博士 (医療科学)	保健衛生学関係 (看護学関係 及びリハビリ テーション関係 以外)	保健学研究科保健学専攻(D)	11	10	保健学研究科 保健学専攻(D)	博士 (保健学)	保健衛生学関係 (看護学関係及びリ ハビリテーション関係以 外)	保健学研究科医療科学専攻(D)	11	10
		保健衛生学関係 (看護学関係)	医療科学研究科医療科学専攻 (D)	9	9			保健衛生学関係 (看護学関係)	その他	3	3
		保健衛生学関係 (リハビリテーション関係 以外)	その他	4	4			保健衛生学関係 (看護学関係)			
								保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)			
		計		24	23			計		14	13
						医療科学研究科 医療科学専攻 (M)	修士 (医療科学)	保健衛生学 関係(看護学 関係及びリハ ビリテーション 関係以外)	保健学研究科保健学専攻(M)	39	18
									その他	3	2
									計		42
						医療科学研究科 医療科学専攻 (D)	博士 (医療科学)	保健衛生学 関係(看護学 関係及びリハ ビリテーション 関係以外)	保健学研究科保健学専攻(D)	9	9
									その他	5	2
									計		14

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位 学科の 又は 分野	手続きの区分
平成13年4月	保健学研究科 保健学専攻修士課程 設置	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	設置認可
平成16年4月	保健学専攻修士課程 看護学領域 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成18年4月	保健学専攻修士課程 臨床検査学領域、看護学領域 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成18年4月	保健学専攻修士課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成20年4月	保健学専攻修士課程 リハビリテーション学領域 新設	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成20年4月	保健学専攻修士課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成21年4月	保健学専攻修士課程 看護学領域 学位名称変更 保健学→看護学	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成24年4月	保健学専攻修士課程 臨床工学領域、医療経営情報学領域 新設	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成24年4月	保健学専攻修士課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成25年4月	保健学専攻修士課程 定員変更 16名→30名	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成25年4月	保健学専攻修士課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成26年4月	保健学専攻修士課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成27年4月	保健学研究科 医療科学専攻博士後期課程 設置	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	設置認可
平成27年4月	保健学専攻修士課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成28年4月	保健学専攻修士課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 学 科 の 分 は 野	手 続 きの 区 分
平成29年4月	保健学専攻修士課程 定員変更 30名→50名	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成29年4月	保健学専攻修士課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成30年4月	保健学専攻修士課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成31年4月	保健学専攻修士課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
平成31年4月	医療科学専攻博士後期課程 定員変更 4名→8名	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
令和2年4月	保健学専攻修士課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
令和2年4月	医療科学専攻博士後期課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
令和4年4月	保健学専攻修士課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
令和5年4月	保健学専攻修士課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
令和5年4月	医療科学専攻博士後期課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
令和6年4月	保健学専攻修士課程 定員変更 50名→25名	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
令和6年4月	保健学専攻修士課程 カリキュラム変更	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	学則変更
令和6年4月	保健学専攻博士後期課程 設置	保健衛生学(看護学) 保健衛生学(リハビリテーション学) 保健衛生学(看護学及び リハビリテーション学を除く)	設置届出
令和6年4月	医療科学専攻博士後期課程の学生募集停止	—	学生募集停止(課程)

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(大学院 保健学研究科 保健学専攻博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
科 共 目 通	保健科学概論	1前	2			○			6					オムニバス
	保健科学研究論	1後	2			○			11	2				オムニバス
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			12	2	0	0	0	
看護学 分野	保健看護融合科学特論	1前		2		○			5					オムニバス
	保健看護融合科学演習	1後		2			○		3					共同
	保健看護融合科学特別研究	1後～3通		6			○		3					
	小計（3科目）	—	0	10	0	—			5	0	0	0	0	
専 門 科 目 リハビ リテー ション 療 法 科 学 分 野	リハビリテーション療法科学特論Ⅰ (リハビリテーション教育科学)	1前		2		○			3					オムニバス
	リハビリテーション療法科学特論Ⅱ (リハビリテーション教育科学)	1前		2		○			3					オムニバス
	リハビリテーション療法科学特論Ⅲ (生体情報・治療システム科学)	1前		2		○			3					オムニバス
	リハビリテーション療法科学特論Ⅳ (運動制御計測科学)	1前		2		○			2	1				オムニバス
	リハビリテーション療法科学演習Ⅰ (リハビリテーション教育科学)	1後		2			○		3					オムニバス
	リハビリテーション療法科学演習Ⅱ (リハビリテーション教育科学)	1後		2			○		3					オムニバス
	リハビリテーション療法科学演習Ⅲ (生体情報・治療システム科学)	1後		2			○		3					共同
	リハビリテーション療法科学演習Ⅳ (運動制御計測科学)	1後		2			○		2	1				共同
	リハビリテーション療法科学特別研究	1後～3通		6			○		7	1				
小計（9科目）	—	0	22	0	—			7	1	0	0	0		
合計（14科目）			—	4	32	0	—		13	1	0	0	0	
学位又は称号	博士（保健学）		学位又は学科の分野					保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く) 保健衛生学関係（看護学関係） 保健衛生学関係(リハビリテーション関係)						
修 了 要 件 及 び 履 修 方 法								授 業 期 間 等						
共通科目4単位を修得し、指導教員が指定する特論2単位、演習2単位及び特別研究6単位を含む10単位以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、本大学院が行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること								1 学年の学期区分			2 学期			
								1 学期の授業期間			1 5 週			
								1 時限の授業時間			9 0 分			

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(大学院 保健学研究科 医療科学専攻博士後期課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
科 共 目 通	医療科学概論	1前	2			○			15						オムニバス	
	医療科学研究論	1後	2			○			13						兼2 オムニバス	
	保健医療連携展開学概論	1後		2		○			2						オムニバス	
	小計（3科目）	—	4	2	0	—	—	—	19	0	0	0	0	兼2	—	
専 門 科 目	生 体 情 報 検 査 科 学 分 野	生体情報検査科学特論	1前		2		○			8						オムニバス
		生体情報検査科学演習Ⅰ (検査展開学)	1後		2			○		3						オムニバス
		生体情報検査科学演習Ⅱ (分子病態解析学)	1後		2			○		3						オムニバス
		生体情報検査科学演習Ⅲ (生体情報生理学)	1後		2			○		2						オムニバス
		生体情報検査科学特別研究	1後～3通		6			○		10						
	小計（5科目）	—	0	14	0	—	—	—	10	0	0	0	0		—	
	科 学 用 分 量 子	医用量子科学特論	1前		2		○			3						オムニバス
		医用量子科学演習	1後		2			○		3						オムニバス
		医用量子科学特別研究	1後～3通		6			○		3						
	小計（3科目）	—	0	10	0	—	—	—	3	0	0	0	0		—	
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 療 法 科 学 分 野	リハビリテーション療法科学特論Ⅰ (リハビリテーション教育科学)	1前		2		○			3						オムニバス	
	リハビリテーション療法科学特論Ⅱ (運動制御計測科学)	1前		2		○			3	1					オムニバス	
	リハビリテーション療法科学演習Ⅰ (リハビリテーション教育科学)	1後		2			○		3						オムニバス	
	リハビリテーション療法科学演習Ⅱ (運動制御計測科学)	1後		2			○		3	1					オムニバス	
	リハビリテーション療法科学特別研究	1後～3通		6			○		7	1						
小計（5科目）	—	0	14	0	—	—	—	7	1	0	0	0		—		
看 護 融 合 科 学 分 野	看護融合科学特論Ⅰ	1前		2		○			3						兼1 オムニバス	
	看護融合科学特論Ⅱ	1前		2		○									兼1	
	看護融合科学演習Ⅰ	1後		2			○		3						兼1 オムニバス	
	看護融合科学演習Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	看護融合科学特別研究	1後～3通		6			○		3							
小計（5科目）	—	0	18	0	—	—	—	3	0	0	0	0	兼2	—		
合計（21科目）		—	4	58	0	—	—	—	23	1	0	0	0	兼2	—	
学位又は称号	博士（医療科学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)										
修了要件及び履修方法							授業期間等									
共通科目4単位（保健医療科学領域は6単位）を修得し、指導教員が指定する特論2単位、演習2単位及び特別研究6単位を含む14単位(保健医療科学領域は16単位)以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、本大学院が行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

別記様式第2号 (その2の1)

教育課程等の概要																
(大学院 保健学研究科 保健学専攻修士課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	保健学セミナー	1・2通	2			○			1						兼6	オムニバス
	アントレプレナーシップ概論	1前		2		○									兼1	オムニバス
	生命倫理学	1前		2		○									兼4	オムニバス
	免疫学概論	1前・1後		2		2			2	1					兼1	オムニバス
	健康科学概論	1前		2		○			4						兼1	オムニバス
	医療情報処理学	1後		2		○			1	1					兼1	オムニバス
	臨床遺伝学	1後		2		○			2	1					兼1	オムニバス
	臨床検査学セミナー	1前		2		○			8	7						オムニバス
	分子遺伝学特論	1前		2		○			3						兼1	オムニバス
	看護研究法	1前		2		○			2						兼3	オムニバス
	看護理論	1後		2		○				2					兼2	オムニバス
	コンサルテーション論	1後		2		○									兼1	
	チーム医療論	1前		1		○									兼1	
	医療安全特論	1前		1		○			1						兼1	オムニバス
	生体情報工学	1後		2		○					1				兼5	オムニバス
	放射線情報処理学	1前・1後		2		○				1						
	放射線基礎医学	1後		2		○			1	1						
	放射線衛生学	1前		2		○			1							
	磁気共鳴画像解析学	1前		2		○				1						
	リハビリテーション医学	1前		2		○									兼7	オムニバス
	リハビリテーション学概論	1前		2		○			4	1					兼2	オムニバス
	運動生理学特論	1後		2		○			2	2					兼2	オムニバス
	臨床教育学	1前		2		○									兼1	
	運動機能障害	1前		2		○			3	2					兼1	オムニバス
	環境・病態生理学	1後		2		○			2	1					兼3	オムニバス
	臨床医工学	1後		2		○			3						兼1	オムニバス
小計 (26科目)		—	2	48	0	—			24	13	1	0	0	兼41		
専門科目 (臨床検査学領域)	臨床検査学分野	臨床検査学特論Ⅰ	1前		2		○		6	5					兼3	オムニバス
		臨床検査学特論Ⅱ	1後		2		○		6	2					兼1	オムニバス
		臨床検査学演習	1通・2前		6			○		11	7					共同
		臨床検査学特別研究	1後・2通		12			○		11	7					
		疾患モデル科学特論	1前		2		○		1						兼3	オムニバス
		先端医療開発論	1前		2		○		1						兼9	オムニバス
		臨床研究・治験概論	1前		2		○		1						兼6	オムニバス
		臨床研究コーディネーター実習	1後		2				○	1					兼7	共同
	遺伝カウンセリング分野	基礎人類遺伝学	1前		2		○		1						兼5	オムニバス
		基礎人類遺伝学演習	1前		2			○	1	1					兼2	オムニバス
		臨床遺伝学演習	1後		1		○	○	1						兼4	オムニバス
		遺伝関連情報・情報検索方法演習	1後		1		○	○							兼2	オムニバス
		遺伝医療と社会	1前		1		○								兼1	
		遺伝医療と倫理演習	1前		1			○							兼1	
		遺伝カウンセリング	1前		1		○		1						兼4	オムニバス
		遺伝カウンセリング演習	1後		2			○	1						兼2	オムニバス
		遺伝カウンセリング実習	1後・2前		6				○	1					兼6	共同
	遺伝カウンセリング特別研究	1後・2通		10				○	1							
	医療殖分補野助	生殖補助医療特論	1前		2		○		2	1					兼4	オムニバス
		生殖補助医療演習Ⅰ	1通		4			○	1						兼3	オムニバス
		生殖補助医療演習Ⅱ	2通		4			○	2						兼1	オムニバス
		生殖補助医療特別研究	2通		10			○	1							
小計 (22科目)		—	0	77	0	—			15	7	0	0	0	兼39		

専門科目（看護学領域）	成人・老年看護学分野	セルフケア学特論Ⅰ	1前		2		○			1								兼1			
		セルフケア学特論Ⅱ	1後		2		○			1								兼1	共同		
		セルフケア学演習Ⅰ	1前		2			○		2								兼1	共同		
		セルフケア学演習Ⅱ	1後		2			○		2								兼1	共同		
		セルフケア学特別研究	1後・2通		10			○		2											
	精神・地域看護学分野	精神・地域看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1									オムニバス	
		精神・地域看護学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1									オムニバス	
		精神・地域看護学演習Ⅰ	1前		2			○		1	1									オムニバス	
		精神・地域看護学演習Ⅱ	1後		2			○		1	1									オムニバス	
		精神・地域看護学特別研究	1後・2通		10			○		1	1										
	母性・小児看護学分野	母性・小児看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1										オムニバス
		母性・小児看護学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1										オムニバス
		母性・小児看護学演習Ⅰ	1前		2			○		1	1										オムニバス
		母性・小児看護学演習Ⅱ	1後		2			○		1	1										オムニバス
		母性・小児看護学特別研究	1後・2通		10			○		1	1										
	基礎看護学・統合看護学分野	基礎・統合看護学特論Ⅰ	1前		2		○			3	1								兼2	オムニバス	
		基礎・統合看護学特論Ⅱ	1後		2		○			3	1								兼2	オムニバス	
		基礎・統合看護学演習Ⅰ	1前		2			○		2	1								兼2	共同	
		基礎・統合看護学演習Ⅱ	1後		2			○		2	1								兼2	共同	
		基礎・統合看護学特別研究	1後・2通		10			○		2	1										
急性期・周術期分野	フィジカルアセスメント	1前		2		○												兼12	オムニバス		
	病態生理学特論	1前		2		○												兼5	オムニバス		
	臨床薬理学特論	1前		2		○												兼1			
	クリティカルケア学特論	1前		2		○												兼1			
	外科医療病態診断学特論	1前		2		○			2	1								兼6	オムニバス		
	総合内科学特論	1後		3		○			1									兼19	オムニバス		
	外科患者管理学特論Ⅰ	1後		3		○			2									兼18	オムニバス		
	外科患者管理学特論Ⅱ	1後		3		○			2									兼18	オムニバス		
	急性期患者管理学特論	1後		3		○												兼14	オムニバス		
	在宅医療特論	1後		1		○												兼6	オムニバス		
	急性期・外科患者管理演習	1後		2			○											兼17	オムニバス		
	在宅医療特定行為実習	2後		1				○										兼3	共同		
	急性期・外科患者管理統合実習	2通		19				○		2								兼20	共同		
急性期・周術期課題研究	1後・2通		5				○		6												
臓器移植コーディネーター分野	臓器移植に伴う倫理	1後		2		○				1								兼7	オムニバス		
	臓器移植医療論	1前		2		○												兼11	オムニバス		
	臓器移植コーディネーター特論	1前		2		○				2								兼5	オムニバス		
	《レシピエント移植コーディネーターコース》																				
	レシピエント移植コーディネーター演習	2前		2			○			1								兼2	オムニバス		
	レシピエント移植コーディネーター実習	1・2通		5				○		1								兼2	共同		
	レシピエント移植コーディネーター課題研究	1後・2通		5			○			1											
	《ドナー移植コーディネーターコース》																				
	ドナー移植コーディネーター演習	2前		2			○			1								兼2	オムニバス		
ドナー移植コーディネーター実習	1・2通		5				○		1								兼2	共同			
ドナー移植コーディネーター課題研究	1後・2通		5				○		1												
小計（43科目）			—	0	152	0	—	—	14	5	0	0	0				兼130				
専門科目（医用放射線科学領域）	医用放射線科学分野	医用放射線科学特論Ⅰ	1前		2		○		2	6									オムニバス		
		医用放射線科学特論Ⅱ	1後		2		○		1	2								兼2	オムニバス		
		医用放射線科学演習	1通・2前		6			○		3	8								共同		
		医用放射線科学特別研究	1・2通		12			○		3	8										
医学物理学分野	医学物理学特論	1前		2		○			1	3	2								オムニバス		
	医学物理学演習	1通・2前		4			○		1	3	2								共同		
	医学物理学臨床実習	2通		4				○		1	1							兼2	共同		
	医学物理学特別研究	1・2通		10			○		1	3	2										
小計（8科目）			—	0	42	0	—	—	4	11	2	0	0				兼4				

専門科目(リハビリテーション学領域)	活動科学分野	リハビリテーション科学特論	1後	2	○		3	2				兼7	ホニハス		
		活動科学演習	1後・2前	4		○		2	1				兼4	ホニハス	
		活動科学特別研究	1後・2通	10			○		2	1					
	摂食・嚥下治療学分野	摂食・嚥下治療学特論	1後	2	○			2					兼1	ホニハス	
		摂食・嚥下治療学演習	1後・2前	4			○		2					ホニハス	
		摂食・嚥下治療学特別研究	1後・2通	10			○		2						
	リハビリテーション機能形態学分野	リハビリテーション機能形態学特論	1後	2	○			2						ホニハス	
		リハビリテーション機能形態学演習	1後・2前	4			○		2					ホニハス	
		リハビリテーション機能形態学特別研究	1後・2通	10			○		2						
	リハビリテーション教育科学分野	リハビリテーション教育科学特論	1後	2	○			1	1					ホニハス	
		リハビリテーション教育科学演習	1後・2前	4			○		2					兼4	ホニハス
		リハビリテーション教育科学特別研究	1後・2通	10			○		2						
	リハビリテーション生体医学分野	リハビリテーション科学特論	1後	2	○			3	2					兼7	ホニハス
		リハビリテーション生体医学演習	1後・2前	4			○		1	1				兼2	共同
		リハビリテーション生体医学特別研究	1後・2通	10			○		1	1					
小計(15科目)			—	0	80	0	—	9	2	0	0	0	12		
専門科目(臨床工学領域)	臨床工学分野	臨床工学特論Ⅰ	1前	2	○				1				兼2	ホニハス	
		臨床工学特論Ⅱ	1後	2	○			2	2				兼2	ホニハス	
		臨床工学演習	1通・2前	6			○		2	3				共同	
		臨床工学特別研究	1後・2通	12			○		2	3					
	小計(4科目)			—	0	22	0	—	2	3	0	0	0	兼2	
専門科目(医療経営情報学領域)	医療マネジメント分野	医療マネジメント学特論	1前	2	○										
		医療マネジメント学演習	1通・2前	4			○								
		医療マネジメント学特別研究	1後・2通	10			○								
	医療情報分野	医療情報学特論	1前	2	○										
		医療情報学演習	1通・2前	4			○								
		医療情報学特別研究	1後・2通	10			○								
	医療通訳分野	臨床基礎医学	1前	2	○										
		医療関連法規	1前	2	○										
		医療通訳倫理概論	1後	2	○										
		多文化共生論	1前	2	○										
		医療通訳概論	1後	2	○										
		医療通訳実習	2通	6			○								
		医療通訳課題研究	1後・2通	4			○								
		《英語コース》													
		医療通訳英語	1前	2	○										
		医療通訳英語実務	1後	2	○										
		医療通訳英語演習	1後	2			○								
		《中国語コース》													
		医療通訳中国語	1前	2	○										
医療通訳中国語実務	1後	2	○												
医療通訳中国語演習	1後	2			○										
小計(19科目)			—	0	64	0	—	0	0	0	0	0	0		
合計(137科目)			—	2	485	0	—	42	27	2	0	0	兼210		
学位又は称号	修士(保健学) 修士(看護学)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く) 保健衛生学関係(看護学関係) 保健衛生学関係(リハビリテーション関係)												
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
30単位(保健学専攻 臨床検査学領域 遺伝カウンセリング分野においては37単位、生殖補助医療分野においては34単位、看護学領域 急性期・周術期分野においては57単位、医療経営情報学領域 医療通訳分野においては32単位)以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、本大学院が行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
（大学院 保健学研究科 保健学専攻博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	保健科学概論	<p>（概要）医療施設内の看護、リハビリテーションの領域に留まることなく、医学、医療全般にわたる他分野を含めた最新の知見、情報をテーマとして講演会を開催する。医療施設外の衛生・保健学、保健・栄養学、人文社会科学の分野を中心に保健医療関連領域に社会学・心理学・福祉学の視点を加味しながら、病気予防や健康増進についての科学的研究視点を研究に応用できるよう医療人に必要な最新で高度な知識を学修する。</p> <p>また、現代は生活習慣病や環境に起因する疾病・障害、予防医学の重要性が高まっており、保健衛生学の必要性が高い。疾病の予防や健康の保持増進について保健統計、地域保健、母子保健、産業保健学、精神保健学、環境科学など、さまざまな視点からの保健衛生について学修する。また、それらのための環境づくりを研究し、疾病の要因がどこにあるのかを、心理的要因や生活環境にまで広げて解明し、健康障害をどう防止するかを追究する。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>1. 6回分は教授6名によりオムニバス形式で教授する。4回分は外部講師によるセミナー、5回分は学内講演会による出席を必須とする。</p> <p>（1 金田 嘉清／1回） 保健衛生に関わる理学療法士および作業療法士の現状と、教育環境、社会構造、問題点について解説する。</p> <p>（2 須釜 淳子／1回） 診療ガイドラインの目的ならびに作成法について具体例を提示しながら解説する。</p> <p>（8 櫻井 宏明／1回） リハビリテーション療法学における技能の標準化に向けた取り組みの実際と、客観的臨床能力試験の活用について解説する。</p> <p>（9 寺西 利生／1回） 活動を拡大を目指す場であるリハビリテーション病棟は、転倒の多く発生する病棟である。転倒危険度を減らしながら活動の量や範</p> <p>（3 村山 陵子／1回） 多分野融合による看護ケアのエビデンス創出について解説する。</p> <p>（4 竹原 君江／1回） 糖尿病足病変からみる予防ケアの重要性について概説する。</p> <p>2. 医療保健衛生学セミナーとして大学内外から著名な研究者を広く招聘し、講演会を4回／年開催する。質疑応答の時間を十分に確保し討議する。</p> <p>3. 学内で行われる藤田学園医学会の特別講演（1回）及びシンポジウム（1回）、倫理セミナー・コンプライアンスセミナー・APRIN eラーニングプログラム等（2回）、博士論文公開審査会（1回）に参加、視聴し最新で高度な知識を学修し、研究者としての基本的素養を身に付ける。</p>	オムニバス方式

共通科目	保健科学研究論	<p>(概要) 病気やケガは医療機関で治療のための医療行為を受ける。しかし、早期に病気を発見し、治療を開始できたほうが経過は良好なことが多い。さらには、そもそも病気にかかりにくい環境を整え、健康を維持増進する方法を考えるも重要な視点である。病気の治療はもちろんのこと退院後、予防や健康の維持増進などシームレス医療について研究する。臨床現場の技術革新が進む中、ロボットやInformation and Communication Technology (ICT)、Artificial Intelligence (AI) などのテクノロジーの有効活用が求められている。それらの研究開発、実証実験はもとより得られた臨床データから社会実装創成研究に応用する。実証データや最新の研究を、具体例を基に教授する。さらに、ディスカッションを通して保健医療分野の連携的な研究学び、各分野への活用・応用を図る。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(1 金田 嘉清/1回) 保健衛生に関わる理学療法士および作業療法士について、療法士教育の問題点とその対応策、教育学的研究について解説する。</p> <p>(2 須釜 淳子/2回) システマティックレビューとメタ分析について診療ガイドラインのエビデンスとの関連から解説する。</p> <p>(8 櫻井 宏明/1回) リハビリテーション療法科学における技能の標準化に向けた取り組みとしての、養成校学生、卒後療法士を対象とした教育学的研究の現状について解説する。</p> <p>(9 寺西 利生/1回) 片麻痺患者の活動障害を評価する三次元動作解析法について学修する。また、片麻痺患者の歩行再建について機能障害の重症度、発症後経過、装具・補助具の使用も含めて方法論、アウトカムについて教授する。</p> <p>(3 村山 陵子/1回) 超音波検査装置による看護ケアの拡がりについて実態調査からアルゴリズム開発と実証研究を例に解説する。</p> <p>(4 竹原 君江/1回) 足白癬ケアにおける看護理工学研究について実態調査から、ケア開発、実証研究を例に概説する。</p> <p>(10 山田 晃司/1回) 脳海馬の神経細胞の形態学的変化、受容体と神経伝達物質・神経ネットワーク、シナプスの長期増強 (LTP) と長期抑圧 (LTD) について運動による老化に伴う認知機能の改善を分子メカニズムから解説する。</p> <p>(11 稲本 陽子/1回) 摂食嚥下障害患者に対する活動再建のための治療指向的評価法について従来法から最新法まで、それぞれの特徴や要点や研究状況を解説する</p> <p>(13 田辺 茂雄/1回) リハビリテーションに用いる様々な活動支援機器について、その分類、それぞれの特徴や要点、研究の実施状況について解説する。</p> <p>(14 武田 湖太郎/1回) AIアルゴリズムの基礎となっている回帰・分類や機械学習の手法について、具体的なデータ例を用いて概説する。</p> <p>(5 三吉 友美子/1回) 尺度開発の方法と自己調整学習研究の動向を解説する。</p> <p>(6 中村 小百合/1回) 保健医療における多職種連携に関する研究の動向を概説する。</p> <p>(12 小野木 啓子/1回) 生活期リハビリテーションの実践と課題について概説する。</p> <p>(7 世古 留美/1回) 健康施策から見た生活習慣病の発症予防について、我が国の健康施策や社会科学の視点と方法論を概説する。</p>	オムニバス方式
------	---------	---	---------

看護学分野	保健看護融合科学特論	<p>(概要) 人々の健康、取りまく環境、身体的・精神的・心理的・社会的影響について、理論をとおして地域で生活する人々の健康の保持・増進、健康回復を考える。また、様々な理論、研究デザイン、研究方法を用いて、医療、保健活動にエビデンス・ベースト・プラクティスを実装・普及させる実装科学の基本を概説する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 須釜 淳子／7回) 実装科学、ヘルスデザインシンキング</p> <p>(7 世古 留美／2回) 地域で生活する人々の現状と課題、保健医療福祉に関する政策、地域で生活する人々の健康保持増進の理論</p> <p>(6 中村 小百合／2回) 患者理解に必要な看護理論、理論の看護実践への活用</p> <p>(3 村山 陵子／2回) 看護理工学的手法に基づくリバーストランスレーショナルリサーチ、看護のイノベーション</p> <p>(4 竹原 君江／2回) 慢性疾患を持ちながら暮らす人々への看護に関する理論</p>	オムニバス方式
	保健看護融合科学演習	<p>(概要) 特論で学んだ理論や最近の研究の動向からそれぞれの根幹となる考え方や理論、手法について討議する。また、臨床上の疑問、リサーチクエストンについて省察する方法、研究計画立案から研究成果公開にいたる過程について実践例を通じて学ぶ。</p> <p>(SGD形式／全15回)</p> <p>(2 須釜 淳子、3 村山 陵子、4 竹原 君江／15回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献レビューの作成 ・文献レビューに基づく研究目的の明確化 ・研究目的に基づく研究方法 ・研究計画書の作成方法 ・看護研究における倫理 ・データ収集と解析 ・論文執筆と公開 	共同
	保健看護融合科学特別研究	<p>(概要) 特別研究では、保健看護融合科学のエビデンスの構築、ならびにその社会実装に関する研究を行い、博士論文を作成する。博士論文の作成を通じて、科学者の良心、研究に対する姿勢、独創的な発想、研究のありかたを学ぶ。リレーションに関わる研究を行う。</p> <p>(2 須釜 淳子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慢性創傷、皮膚障害、老年症候群の予防・管理に関わるエビデンスの構築とその社会実装に関する研究 ・基礎看護技術に関わるエビデンスの構築とその社会実装に関する研究 <p>(3 村山 陵子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビデンスのある看護技術の創生と社会実装のためのシステム構築に関する研究 ・看護技術普及のための教育プログラム開発（教材開発・人材育成を含む）と社会実装に関する研究 <p>(4 竹原 君江)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護理工学的手法を用いた糖尿病足潰瘍予防ケア・アセスメント技術開発と社会実装に関する研究 ・臨床における研究シーズからアドバンストな新しい看護ケアを生み出し、社会実装する（広く臨床に還元する）までの一連あるいはその一部に関する研究 ・看護職の働く環境や教育、患者教育に関する研究 	

リハビリテーション療法学分野	<p>リハビリテーション療法学特論Ⅰ (リハビリテーション教育科学)</p>	<p>(概要) リハビリテーションに携わる理学療法士および作業療法士の教育に関連する観点としては、養成校の学生を対象とした座学、演習、および臨床実習などからなる卒前教育、新人および若手療法士を対象とした卒後研修、それらを指導するための臨床指導者研修、組織を運営する管理運営者研修に分類される。本講義では、療法士教育に携わる者として理解しておくべき事項について教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 金田 嘉清／4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療法士の現状と、教育環境、社会構造、問題点 ・療法士の関連法規、社会保障、職域 ・リハビリテーションの定義や諸領域、関連職種 ・指定規則、コンプライアンス、多職種連携 ・良好なコミュニケーション、第三者による外部評価 <p>(8 櫻井 宏明／8回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等中等教育と若者の心理的特徴（発達障害含む） ・教育の本質、目的、歴史、教育課程、制度 ・学習者心理、情報活用、教授法、学習理論 ・教育課程、授業設計 ・臨床実習指導、コーチングとティーチング ・臨床実習指導者論、臨床実習施設 <p>(13 田辺 茂雄／3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究方法、研究デザイン、統計学 ・教育の評価の意義、種類、方法 ・授業評価、成績評価、試験問題作成 ・臨床実習の評価 	オムニバス方式
	<p>リハビリテーション療法学特論Ⅱ (リハビリテーション教育科学)</p>	<p>(概要) 本講義では、リハビリテーション療法学特論Ⅰで学修した事項について、それぞれのテーマに合わせて自ら調べ、その結果を批判的に吟味することによって知識の定着水準を高める。加えて、その内容について他者と議論することで理解を深め、同時に教授方法の工夫について学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 金田 嘉清／4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療法士の現状と、教育環境、社会構造、問題点について議論する。 ・療法士の関連法規、社会保障、職域について議論する。 ・リハビリテーションの定義や諸領域、関連職種について議論する。 ・指定規則、コンプライアンス、多職種連携について議論する。 ・良好なコミュニケーション、第三者による外部評価について議論する。 <p>(8 櫻井 宏明／8回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等中等教育と若者の心理的特徴（発達障害含む）について議論する。 ・教育の本質、目的、歴史、教育課程、制度について議論する。 ・学習者心理、情報活用、教授法、学習理論について議論する。 ・教育課程、授業設計について議論する。 ・臨床実習指導、コーチングとティーチングについて議論する。 ・臨床実習指導者論、臨床実習施設について議論する。 <p>(13 田辺 茂雄／3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究方法、研究デザイン、統計学について議論する。 ・教育の評価の意義、種類、方法について議論する。 ・授業評価、成績評価、試験問題作成について議論する。 ・臨床実習の評価について議論する。 	オムニバス方式

リハビリテーション療法科学分野	リハビリテーション療法科学特論Ⅲ (生体情報・治療システム科学)	<p>(概要) 医学的リハビリテーションの中心を担う活動障害に対するリハビリテーション評価、そして治療について教授する。また、広く生体情報を解析し、治療法の分析・検討についても学修する。国内外の文献調査によって最新の知見を学修するとともに問題点を整理し、科学的根拠に基づく評価およびアプローチについて検討する。</p> <p>(オムニバス形式/15回)</p> <p>(9 寺西 利生/5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋力増強練習の方法論 ・バランス評価とバランス練習 ・歩行評価と歩行練習 ・生体情報の解析法 ・治療法の分析・検討 <p>(11 稲本 陽子/5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動再建のための方法論 ・治療指向的評価 ・嚙下練習における要素練習と課題練習 <p>(12 小野木 啓子/5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動自立度および介護度の評価 ・栄養状態の評価とリハビリテーション ・加齢に伴う認知機能・心理の変化に対する評価 	オムニバス方式
	リハビリテーション療法科学特論Ⅳ (運動制御計測科学)	<p>(概要) リハビリテーションの対象となる活動や運動について、その制御や回復にかかわる先行研究を概括するための実践的な方法を学ぶとともに、臨床的・解剖学的・生理学的な視点からの批判的な討議をとおして、最新知見についての理解を深める。また研究遂行における計測機器・治療機器の概念、生体情報の計測法、計測データの信号処理法、統計解析手法について、実例を用いた講義・討議によって理解を深めるとともに、実装手段としてのプログラミングについても学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 山田 晃司/5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖学的視点からの計測と評価 ・生理学的視点からの計測と評価 ・生化学的視点からの計測と評価 ・分子生物学的視点からの計測と評価 <p>(13 田辺 茂雄/5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションにおける介入・計測機器の概念 ・生体計測機器を用いたデータ取得と信号処理法 ・運動制御研究に用いられる統計解析手法 ・生体計測のためのプログラミング言語 (概念) ・生体計測のためのプログラミング (実装) <p>(14 武田 湖太郎/5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文の位置づけと最新知見のサーベイ ・先行研究のまとめと研究動向 ・論文構成の把握と批判的視点による読解 ・生体の信号処理・統計処理のためのプログラミング言語 (概念) ・生体の信号処理・統計処理のためのプログラミング (アルゴリズム) ・生体の信号処理・統計処理のためのプログラミング (実装) 	オムニバス方式

リハビリテーション療法学分野	リハビリテーション療法学演習Ⅰ (リハビリテーション教育科学)	<p>(概要) 高度化したリハビリテーション、多様化した患者の要望に対応できる理学療法士および作業療法士の養成に向けた療法士教育について、効果的な教育手法を明らかにするために、先行研究を調査し、整理した上でまとめ、解釈をする技能について学修する。加えて、療法士教育に関する研究を行うために必要な各種統計手法についても、演習を通じて学修する。研究着想、計画、実施、統計、考察までの一連の過程について、先行研究を読み解いた後、議論の中で解説を加えることで、汎用性の高い基本的な技能を学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 金田 嘉清／4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における療法士教育の問題点とその対応策 <p>(8 櫻井 宏明／8回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習指導者の養成における実習内容 ・大学教員と実習指導者との教育指導体制 ・理学療法士および作業療法士の技能の標準化 ・客観的臨床能力試験 <p>(13 田辺 茂雄／3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養成校学生を対象とした教育学的研究 ・卒後療法士を対象とした教育学的研究 ・療法士教育研究に必要な統計解析手法 	オムニバス方式
	リハビリテーション療法学演習Ⅱ (リハビリテーション教育科学)	<p>(概要) 先進的かつ効果的な療法士教育を自ら学修するため、テーマに基づいて文献の調査を行い、まとめることで得られた知見、今後の課題を明確にできる技能を養う。加えて、他者の発表に対して批判的な視点を持ちながらも建設的に議論することで、合理的な思考法を身につける。また、最新の英語文献の抄読を通じて、自身の研究テーマに関連する知識を深めると同時に、研究手法や解析、文章構成力なども討議を通して学修する。抄読した文献の周辺知識を能動的に深く調べ、自ら問題の発見と解決策を創造することで、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力が獲得できるように、演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 金田 嘉清／4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における療法士教育の問題点 <p>(8 櫻井 宏明／8回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習 ・学生教育 <p>(13 田辺 茂雄／3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒後療法士の教育・研修 	オムニバス方式
	リハビリテーション療法学演習Ⅲ (生体情報・治療システム科学)	<p>(概要) リハビリテーション療法学特論Ⅲ(生体情報・治療システム科学)において学修したリハビリテーション評価、そして広く生体情報を解析し、治療に関する基礎的あるいは臨床的な分析・検討を文献レビューを通して、最新の知見を調査し、今後、臨床において要求される研究の方向性を議論し展望する。</p> <p>(SGD形式／全15回)</p> <p>(9 寺西 利生、11 稲本 陽子、12 小野木 啓子／15回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋力増強練習のレビューと要求される研究の方向性 ・バランス練習のレビューと要求される研究の方向性 ・歩行評価のレビューと要求される研究の方向性 ・嚥下練習における運動学習のレビューと要求される研究の方向性 ・最新の治療指向的評価(嚥下CT、マノメトリー)のレビューと要求される研究の方向性 ・課題練習における姿勢調整、嚥下手技のレビューと要求される研究の方向性 ・日常生活活動自立度および介護度のレビューと要求される研究の方向性 ・栄養状態の評価のレビューと要求される研究の方向性 ・加齢に伴う認知機能・心理面の変化のレビューと要求される研究の方向性 ・生体情報の解析を通して病態の経時的変化と治癒予測の方向性 	共同

	リハビリテーション療法科学演習Ⅳ (運動制御計測科学)	<p>(概要) 本演習は、運動制御や機能回復、生体計測、リハビリテーション工学などに関連する最新の英語原著論文、英語総説論文を講読し、内容について担当教員と討議する。討議の中で、運動や機能評価の生理学的意味をはじめとした背景、生体情報の信号処理、統計解析手法などの方法、そして結果の解釈について深く理解し、自らの研究に生かす。討議の資料作成を通して図表の作成方法など研究成果発表に必要な技術を学修することで、汎用性の高いテクニックを身につける。</p> <p>(SGD形式/15回)</p> <p>(10 山田 晃司、13 田辺 茂雄、14 武田 湖太郎/15回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動制御や機能回復に関する最新の英語文献の講読と討議 ・生体計測に関する最新の英語文献の講読と討議 ・リハビリテーション工学に関する最新の英語論文の講読と討議 	共同
リハビリテーション療法科学分野	リハビリテーション療法科学特別研究	<p>(概要) 特別研究では、活動の回復を支援する科学であるリハビリテーションに関わる研究を行う。</p> <p>リハビリテーション教育科学の療法士教育に関する研究においては、チーム医療に貢献でき、高い指導能力を有する理学療法士および作業療法士の養成に向けた教育方法を研究対象とする。リハビリテーションの高度化、患者の要望の多様化を踏まえた、臨床技術教育と臨床実習の構築を検討する。また、臨床実習を効果的に実施するための、実習指導者の養成に関して検討する。さらに、養成校教員と実習指導者との連携を強化した新たな教育指導体制についても検討する。</p> <p>(1 金田 嘉清)</p> <p>療法士教育に関して、Evidence Based Medicine (EBM) の視点で研究する。加えて社会や街づくり、地域保健に関しても研究する。以下に研究指導テーマを示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療法士教育と治療技術に関する研究 ・療法士の臨床実習指導に関する研究 ・学生教育、新人理学療法士教育、患者教育に関する研究 ・療法士における地域貢献に関する研究 <p>(8 櫻井 宏明)</p> <p>高い技術力、統率力、指導能力をもった療法士教育者の養成に関して研究する。以下に研究指導テーマを示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療法士技術の客観的評価に関する研究 ・実習指導者の養成に関する研究 ・養成校および実習地の連携教育指導体制に関する研究 ・理学療法士および作業療法士の治療技術の標準化に関する研究 ・卒後療法士の生涯学修に関する研究 <p>生体情報・治療システム科学に関する研究においては、生体情報を基に活動・介入・行動変容等、活動障害を対象とした実践科学および嚥下動態の運動学的解析、嚥下機能障害の特定、嚥下手技や練習法の精緻化をはかる。また、高齢化社会において急性期から生活期までシームレスな医療が必要とされている中、高齢者医療を日常生活活動自立度や栄養状態、認知機能、病態の経時的変化と症状改善や治癒予測に関する独創的な発想から研究指導を行う。</p> <p>(9 寺西 利生)</p> <p>活動障害を対象とした実践科学であるリハビリテーションの評価・介入は、臨床家および研究者の努力で日々進歩している。また、広く生体情報を解析し、治療に応用する。この特別研究では、活動・介入・行動変容をキーワードとして、博士論文を作成する。その中で、研究テーマの選択、先行研究のレビュー、研究計画の立案、実験、考察という一連の論文作成過程を学ぶ。また、博士論文の作成を通じて、科学者の良心、研究に対する姿勢、独創的な発想、研究のありかたを学ぶ。テーマは以下の 4つに集約される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行評価・歩行再建に関する研究 ・痙縮の定量計測に関する研究 ・転倒予防・転倒危険度評価・患者マネジメントに関する研究 ・リハビリテーション介入のタイムスタディと帰結に関する研究 	

リハビリテーション療法学分野	リハビリテーション療法学特別研究	<p>(11 稲本 陽子) 「食」を再建する摂食嚥下リハビリテーションに関する研究を行い、博士論文を作成する。嚥下動態の運動学的解析や運動力学的解析にて嚥下の生理の解明、異常所見を引き起こす機能障害の特定、嚥下手技や練習法の精緻化をはかる。この過程をとおし、嚥下動態の解析方法の熟知と限界を理解すると同時に、研究法および論文作成方法、研究倫理を学ぶ。以下に具体的なテーマを示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嚥下造影や嚥下 CT を用いた嚥下動態と運動調整理解に関する研究 ・嚥下造影や嚥下 CT を用いた嚥下練習法の運動学的効果解明に関する研究 ・マノメトリーを用いた嚥下練習法の解明に関する研究 <p>(12 小野木 啓子) 高齢化社会において急性期から生活期まで切れ目のない医療が必要とされている。この特別研究では、高齢者医療をキーワードとして博士論文を作成する。その中で、研究テーマの選択、先行研究のレビュー、研究計画の立案、実験、考察という一連の論文作成過程を学ぶ。また、博士論文の作成を通じて、科学者の良心、研究に対する姿勢、独創的な発想、研究のありかたを学ぶ。テーマは以下の 3つに集約される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の日常生活活動自立度と介護者の介護負担に関する研究 ・高齢者の栄養状態とリハビリテーションに関する研究 ・加齢に伴い変化する認知機能・心理への対応に関する研究 <p>運動制御計測科学に関する研究においては、基礎研究から臨床応用まで運動制御、運動学習、リハビリテーション工学に関する研究を行う。具体的には、動作時の姿勢制御、治療的学習、リハビリテーションロボットなどについて疾患モデル動物および模擬患者での基礎的研究、患者での臨床研究を行う。それぞれ専門領域の学会、学術雑誌で発表し、社会に情報発信できる論文指導を行う。</p> <p>(10 山田 晃司) 骨格筋をはじめとする骨、靭帯、腱、関節などの運動器について肉眼的、組織学的な知識や理論に基づき、臨床においてリハビリを行う治療過程で発生する諸問題、予後の判定などに関して、形態と構造観察に留まらないその機能解析について研究を行い、博士論文を作成する。また、神経性調節及び体液性調節の生体制御分野においても同様に実施する。その中で、研究課題の考案、先行研究の進行状況を明確化、研究計画の立案、実験、考察という一連の博士論文作成過程を経て科学者として研究に対する姿勢、独創的な発想を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患モデル動物を用いた基礎研究から人への応用する予防医学的見地からの研究 ・骨形態計測法のような構造解析方法および体液性因子を生化学的に解析する研究 ・マイオカインに代表される体液性因子による生体制御機構に関する研究 <p>(13 田辺茂雄) リハビリテーション療法学に関わる研究のうち、特にリハビリテーション工学に関する研究を行う。リハビリテーション工学とは、臨床での問題点・要望を基に、現場で役立つ実用的な機器・手法を開発する学問であり、以下に具体的なテーマを示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションロボットに関する研究 ・動作分析手法・治療手法の開発に関する研究 <p>(14 武田湖太郎) リハビリテーション療法学に関わる研究のうち、計測工学、リハビリテーション工学、神経科学、認知科学を基盤とした以下の計測・評価及び介入に関する研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋活動・脳活動をはじめとした生体計測に関する研究 ・臨床評価・データベースに関する研究 ・動作分析手法の開発に関する研究 ・運動イメージに関する研究
----------------	------------------	---

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。